

図書館通信



豊かな時間を図書館で

平成30年

9



月号

第450号 (第37巻第6号)

【目次】

P 1 「本の相談室」のご案内	P 6 職員コラム
P 2 行事と展示のお知らせ	P 7 図書館員のおすすめ本
P 3 事業報告	P 8 新着図書案内
P 4 アーニス分館だより	P 12 お知らせとカレンダー、 図書館施設のご案内
P 5 市民の広場	

編集・発行 登別市立図書館

URL <http://www.noboribetsu.ed.jp/~iinkai/library/>

〒059-0012 登別市中央町5丁目21-1

E-mail toshokan@city.noboribetsu.lg.jp

電話 (0143) 85-4324 FAX (0143) 85-4325

「こどもの本の相談室」のご案内

児童室では、平成25年度より「こどもの本の相談室」を開設しています。

「いま、どんな本を読ませたらいいの?」「読み聞かせに適している本は何?」など、さまざまなお悩みに完全予約制で司書がお応えしています。

事前にお知らせいただいたご相談内容をもとに「おすすめ本リスト」を作成し、当日、実際に本を見ていただきながらご提案いたします。

その他にも「お家で行っている読み聞かせ」を見せていただいていたのアドバイスや、「赤ちゃんの読み聞かせに適した抱っこの仕方」についてなど、話し合いを通して一緒にお悩みの解決を目指していきます。どうぞ、お気軽にご相談ください。

<こどもの本の相談室>

- 相談日：毎週水曜日・金曜日の10時～17時まで、1回30分程度
(曜日、相談時間はご相談に応じます)
- 対象：原則として乳幼児から児童などの保護者・小学生などですが、児童書に興味のある方でしたらどなたでも承ります。
- 場所：1階 児童室 (希望に応じて3階会議室の利用も可能です)
- 予約方法：電話・メールおよび児童室カウンターにてお申込みください。
※必ず事前にご予約ください。

映画会

※会場はいずれも図書館3階の会議室です。
入場無料でどなたでもご覧いただけます！

- こども映画会** 日時 9月1日(土) 午前10時30分より(31分)
タイトル くまのがっこう ジャッキーのおたんじょうび(アニメ)
- 名画鑑賞会** 日時 9月1日(土) 午後1時30分より(121分)
タイトル そして父になる(邦画)

イベント・講座

はじめての油絵・・・講師 おはなしぽけっと 高木三千子 氏

申込制

小さなキャンバスにくだものの絵を描きます。(全2回のシリーズ講座です)

開催日時 10月6日(土)、10月20日(土) 午後1時30分～午後3時

申込期間 9月19日(水)～9月29日(土) ※定員になり次第、受付終了

※画材をお持ちでない方は、こちらでご用意します。申込時にご相談ください。

郷土史講座「登別温泉の歴史」・・・講師 郷土文化研究会会長 日野安信 氏

登別温泉の成り立ちとあゆみを学びます。

日時 9月29日(土) 午後1時30分～午後3時

申込不要

おはなし会

※会場はいずれも図書館1階のえほんのへやです。

えほんのへやのおはなしかい(絵本や紙芝居の読み聞かせ)

日時 9月8日(土) 午後2時より



おはなしぽけっと(絵本や紙芝居の読み聞かせ、エプロンシアターなど)

日時 9月22日(土) 午後1時30分より

ロビー展示

①年長児の読書感想画作品展

展示期間 9月1日(土)～15日(土) 図書館本館・鷺別公民館

9月1日(土)～8日(土) 登別婦人センター

②『論語』に関するパネル展

展示場所 図書館1階 ロビー

展示期間 9月19日(水)～22日(土)

事業報告

夏休み工作を行いました



7月28日（土）、恒例の夏休み工作が本館・3階会議室にて低学年（年長児～小学3年生まで）11名、高学年（小学4～6年生）2名の参加で行われました。

低学年は、ダンボールに色画用紙で壁を作りビー玉をころがす「迷路」を作りました。工夫を凝らした仕掛けを作ろうとそれぞれ悪戦苦闘していましたが、完成後は思い通りの出来栄えに歓声をあげていました。

また、高学年は2名だけでしたが、ビーズやビー玉が美しい模様を描く「万華鏡」を作りました。完成後は、穴からのぞく一期一会の世界を堪能していたようです。

来年も多くの方の参加をお待ちしています。



<完成品>



左：低学年作成「迷路」
右：高学年作成「万華鏡」

インターンシップ受け入れ



8月1・2日（水・木）、8・9日（水・木）にかけて北海道登別青嶺高等学校の生徒2名が本館でインターンシップ活動を行いました。

図書の貸出返却などの奉仕業務以外にも、本の修理やブックスタートの見学など2日間の期間中いろいろな業務を体験してもらいました。特に本の装備で行うフィルムコート貼りは、達成感があり両名とも楽しんで作業が出来たようです。初日は空気が入らないようにフィルムコートを貼りつけるのに苦労していましたが、2日目にはコツをつかんだのかうまくできたと喜んでいました。緊張しながらも利用者さんへの貸出返却の際の声掛けや、重い本の移動など真剣に取り組んでくれ、職員にとってもよい刺激となりました。

* 図書館では毎年定期的にインターンシップ・職業体験の受け入れを行っています。慣れない作業でお待たせすることもあるかと思いますが、温かく見守っていただけますよう、よろしくお願いします。

アーニス分館だより



アーニス分館では

- * 「今月のおすすめ」の展示を行っています。
- * DVDを視聴できます。
- * 雑誌は最新号の一夜貸しも行っています。
- * 見やすい大活字本もあります。
- * 貸出が済んだ本は、アーニス分館入口前の「お休み処」で読む事が出来ます。



旅行ガイド関連コーナーのご案内



館内ではさまざまな旅行ガイド関係の本を揃えております。国内・海外・道の駅・絶景・豪華客船での旅・また大好きなペットと共に泊まれるホテルなど 盛り沢山の種類の所蔵があります。



《新刊おすすめ本紹介》



まんがでわかる 天気痛の治し方

佐藤純・あさば／イースト・プレス

日本で唯一の“天気痛外来医師”が天気痛を引き起こしている要因や治し方をまんがでわかりやすく解説します。

前線や台風が近づくと頭痛やめまいがしたり、天気が悪い日が続くと不調が現れたりすることはありませんか？これらの天気痛の症状に効く効果抜群のマッサージやストレッチ、薬の選び方など天気痛ドクターが詳しく教えてくれます！





「図書館です。ご予約の本が入りました。」いつものうれしい電話です。

「入荷した本はなんだろう」、考えているうち、すぐにでも図書館へ行きたくくなります。こんなときばかりではありませんが、天気の良い日は、決まってママチャリで向かいま

す。
タイヤの空気圧を確認し、出発です。ニナルカの雑木林を抜けて、総合グラウンドの観覧席を突っ切り、常盤通りの坂道を一気にさがるのです。ちなみに七月三十一日、図書館でさっそく手にした本は二冊、『「おかあさん」を楽しむ本』（柴門ふみ）と、もう一冊です。

いままで柴門ふみ（漫画家・エッセイスト）という作家は、まったく知らず、その作品はこれまで読んだことがありません。それが、ひょんなことで『「おかあさん」を楽しむ本』を知り、予約してあったものです。ペンネームの柴門は「さいもん」と読み、ポール=サイモンをもじったものだそうです。

一階ロビーにおいて、ページをパラパラしているうち、喜びがこみ上げてきました。そしてこんなときの癖が、つい出てしまいました。「もくじ」と「奥付け」だけのつもりが、「まえがき」まで読んでしまったのです。「…放っとくと子どもたちは、とんでもないことをやらかします。夢と空想と現実がごちゃまぜで、昨日も明日も昼も夜も区別がつかず、タンポポもカタツムリも隣のジイサンも同列においてしまう、この子どもの無茶苦茶さを楽しむこと。（略）子どもは、子どもらしいということだけで、親孝行なのです。そして子どもを育てることは、自分もまたもう一度、幼児期から人生をおさらいすることでもあります。」

ビンの蓋（ふた）や貝殻、土器片やセミの抜け殻など、やみくもにポケットに突っ込み、集めていた時期があります。それらがしだいに遠ざかったのは、小学校で理科とか社会とか、教科の区分線が引かれたころだったのかもしれない。そんな遠景までよみがえってきました。

発行されてから、二十年以上たっている新書版。229ページの本です。これまで利用されてきた時間を十分感じさせる古色、そして黄ばみを顕現させています。そしてこの本は、上富良野町図書館から借りてくれたものでした。大切にされてきたことが、よくわかります。そうでした、いま返却期限がきている『幕末軍艦咸臨丸』は、稚内市立図書館の蔵書です。稚内は妹が住んでいる町。

いままでも、よく伊達や室蘭から取り寄せてもらうことがあります。いまや登別の図書館に在庫がない場合、希望する本を全道に手配し、取り寄せてくれます。これは市民にとって、はかり知れない恩恵・幸福です。この連携ネットワークは、ひよっとすると、図書館業務という枠を越えて、地方行政のあり方そのものに、貴重な示唆を与えているのかも知れません。いつも感謝しつつ、利用させてもらっています。ありがとうございます。（08・01）





『出会いは放送室』



昼休みのチャイムが鳴るといつものオープニング曲が流れ、続いて本の朗読が始まる。給食を食べながら過ごす時間。

かつて私が通っていた小学校の風景だ。

当時、私はこの学校の放送部員として昼休みのほとんどを放送室で過ごしていた。

4時間目の授業の終了と共に急いで放送室に向かい、勢いよくドアを開ける。

期待と不安の一瞬。

今日はどんな本と出会えるのだろうか。そしてちゃんと言葉を伝えることができるのだろうか。

部室には沢山のレコード(年代がわかる“笑、)と様々な図書が収められていて、その中から今日の放送分を選んでいく。部員同志で曲を選び、朗読用の本を決めて行く。

進行と朗読の担当だった私は、初めは原稿を見ながら何分でここまで読んで、次は曲を掛けて…などいろいろと考えながら進めていくが、いざ読みはじめるについついその本の世界に入ってしまう、怒ったり、つられて笑ったり、悲しくなったり、心に残る言葉があったり、もうすっかり夢中になってしまっていた。

あんな小さな部屋なのにどれだけの物語や世界が広がっていたのか。そしてどんなに穏やかで充実した時間だったのか。

振り返ってみるととても大切な思い出となっている。

いつしか大人になり、日々の暮らしの中で時間に追われ本を読むという事も久しく忘れていた。

「おはようございます」「こんにちは」はじめは照れて声がけになかなか答えていただけなかったお客様がこの頃にご自分から話しかけて下さる事が増え、とても嬉しい気持ちになる。今の職場だ。

始めてこの場所に立って沢山の書棚の本を見た時、不安と緊張感と共に、何故かとても懐かしい気持ちになった事を覚えていた。

何年もの時間を巡りもう一度この場所に戻ってきたと、形や環境は変わったが、確かに帰って来たのだとそう感じた。「ただいま」そうどこかで聞こえた。開館時間のアナウンスと共にドアを開ける。

「おはようございます」

今日はどんな出会いが待っているのだろう。

どうかごゆっくりと、

充実した時間をお過ごしいただけますように。



「本バスめぐりん。」 大崎 梢／著 東京創元社／発行

移動図書館車からはじまる「新たな出会い」、読書を通して人と人とが繋がる心地よさ。そんな温かみを感じることができる一冊である。本書の内容を簡単に紹介すると、新米の移動図書館車ドライバーの主人公と相棒の司書が日々の業務をこなす中で、利用者の様々な悩みを二人プラスときどき常連利用者たちが協力しズバツと解決！という4章からなる連作短編となっている。

さすが元書店員の著者らしく、本にまつわる業務の描写は抜群。また、しばしば行われる主人公と相棒司書のコミカルなやりとりも情景が思い浮かびニヤリと笑わせてくれる。そして、最も印象深かったのが第3章で、高齢化が進む地域とその利用者が抱える課題に自ら積極的に関わっていく二人の姿だ。良い意味で現代っぽくない、このアナログ感あふれる「おせっかいさ」が先に述べた温かみを感じる要因だろう。

ITの普及により、家から一步も出ず買い物から何から済んでしまう昨今。書籍でさえタブレット端末にデータをダウンロードするだけで手軽に読める時代。そんな現代において、人と人とが交流する場を提供する移動図書館サービスは大切な存在ではないだろうか。

そして、ここからは当図書館の宣伝になるのだが、登別市にもこのような温かい交流の場を提供できる移動図書館車がある。そう、「こぐま号」だ！ちなみに今年3月に新調しピカピカである。彼らもまた登別らしい本書のような温かい物語を紡いでいてくれるだろうと私は確信している。

さあ、今日も気をつけて行ってらっしゃい！我らが「こぐま号」！

**郷土資料紹介****「私のカルテ」 千葉壽良／著 開院記念誌 医療法人社団千寿会／発行**

皆さんは登別市で最も大きい企業はどこかご存知だろうか？医療法人と社会福祉法人すべてを合わせた総従業員数700名以上、グループ総施設数14施設。この小さな登別市にそんな一大企業がある。皆さんもうお気づきだろう。そう、特定医療法人社団千寿会・三愛病院である。

今回、紹介する郷土資料はこの三愛病院を一代で築き上げた初代理事長・千葉壽良氏の軌跡を辿る書籍だ。本書は出版当時72歳の千葉壽良氏が幼少期から学生時代の生い立ち、第二次大戦時の徴兵制で樺太に赴いた経験、患愛病院長時代から三愛病院創業期の話・・・などを振り返る自伝的な内容となっている。惜しくも氏は2015年6月すでにこの世を去っているが、その晩年まで学校医を自ら志願するなど現場に立ち続けたそう。経営者として大成後もなお最前線で患者と直接関わり合い、自らの感性で様々なニーズを掴もうとする姿は氏の経営理念や奥深い人間性を象徴するエピソードの一つだろう。

開院当初スタッフ十数名からはじまり、現在名実ともに登別一の大企業となった三愛病院。最後に氏が亡くなった翌年、病院敷地内に設置された記念碑に刻まれた言葉を紹介する。

「想像する楽しみは何事にも勝るものである」

稀代の企業家らしい氏の言葉を噛み締めつつ、ここ登別市に根差した一大企業の歴史に思いを馳せるのもまた粋ではないだろうか。

新着図書案内 平成30年9月 No.1

●印は今評判の本です。(電話やメール・ホームページでも予約を受け付けています)

書名	著者	書名	著者
0 総記		劉備と諸葛亮 カネ勘定の『三国志』	柿沼 陽平
● 読書という荒野	見城 徹	近代日本の構造 同盟と格差	坂野 潤治
ニジノ絵本屋さんの本	いしい あや	● 卑弥呼以前の倭国五〇〇年	大平 裕
大人も楽しい博物館に行こう	昭文社	大正＝歴史の踊り場とは何か	鷲田 清一
戦場放浪記	吉岡 逸夫	3 政治・経済・社会・教育	
デジタル・ポピュリズム 操作される世論と民主主義	福田 直子	世界を変えた14の密約	ジャック・ペレットティ
司書のお仕事	大橋 崇行	次なる金融危機	スティーヴ・キーン
1 哲学・宗教		● 手話の歴史 上・下	ハーラン・レイン
消された信仰「最後のかくれ キリシタン」長崎・生月島の人々	広野 真嗣	経営者 日本経済生き残りをかけた闘い	永野 健二
● 誰にもわかるハイデガー 文学部唯野教授・最終講義	筒井 康隆	特権キャリア警察官	時任 兼作
成功ではなく、幸福について語ろう	岸見 一郎	感情的になる前に知らないと 恥ずかしい中国・韓国・北朝鮮Q&A	富坂 聡
傷つかない方法	武藤 清栄	IKIGAI 日本人だけの長く幸せな人生を送る秘訣	茂木 健一郎
仏教論争「縁起」から本質を問う	宮崎 哲弥	身近な人に介護が必要になったときの 手続きのすべて	鈺 裕和 監修
● かくれキリシタン 長崎・五島・平戸・天草をめぐる旅	後藤 真樹	メディアは死んでいた	阿部 雅美
神道入門	新谷 尚紀	となりの少年少女A	草薙 厚子
日本の神社100選	日本の神社研究会	シーア派とスンニ派	池内 恵
2 歴史・地理		定年準備	楠木 新
歴史は実験できるのか	ジャレド・ ダイヤモンド	これで安心！入院・介護のお金	畠中 雅子
馬・車輪・言語 上・下	デイヴィッド・ W. アンソニー	日本人は先祖をどう祀ってきたか	武光 誠
北海道夏山ガイド 特選34コース	長谷川 哲	● ヤングケアラー	澁谷 智子
大江戸知らないことばかり	NHKスペシャル 「大江戸」制作班	● 24歳の僕が、オバマ大統領の スピーチライターに？！	デビッド・リット
● 王たちの最期の日々 上・下	パトリス・ゲニフェイ	非正規・単身・アラフォー女性	雨宮 処凛
SPQRローマ帝国史 1・2	メアリー・ピアード	● 世界一孤独な日本のオジサン	岡本 純子
● 線路つまみ食い散歩	久住 昌之	PTA不要論	黒川 祥子
近代日本の旅行案内書図録	荒山 正彦	思春期の処方せん	山脇 由貴子
女にとって夫とはなんだろうか	西舘 好子	日本の洋食	青木 ゆり子
ふしぎな県境 カラー版	西村 まさゆき	発達障害と少年犯罪	田淵 俊彦
アンデス古代の探求	大貫 良夫	辛くならない子育てのコツ	坂東 真理子
幕末維新改メ	中村 彰彦	住宅ローンのしくみがわかる本	楯岡 悟朗
発掘された日本列島 2018	文化庁	しっかりわかる介護保険の基本としくみ	晶文社編集部
「私の履歴書」61年の知恵	吉田 勝昭	正社員になる面接試験回答事例集 第2版	就活フォーラム21
札幌・小樽・富良野(19-'20年版) 旭山動物園(おとな旅プレミアム)	TAC株式会社 出版事業部	なぜ、わが子を棄てるのか 「赤ちゃんポスト」10年の真実	NHK取材班
シベリアの歴史 新装版	加藤 九祚	9条誕生 平和国家はこうして生まれた	塩田 純

新 着 図 書 案 内 平 成 30 年 9 月 No.2

●印は今評判の本です。(電話やメール・ホームページでも予約を受け付けています)

書 名	著 者	書 名	著 者
「価格」を疑え	吉川 尚宏	コマ送りレシピ	堤 人美
欧州ポピュリズム	庄司 克宏	リサイクルと世界経済	小島 道一
戦火の欧州・中東関係史	福富 満久	節約女王のお金が貯まる冷蔵庫	武田 真由美
寿司サムライが行く!	小川 洋利	男の子と女の子のまいにちパンツ 改訂版	ブティック社
4 自然科学・医学		手ぬぐい使いこなしブック	加藤 敦子
「がん」はなぜできるのか	国立がん研究センター研究所	自分で直せば断然お得!身のまわりの修理の教科書	西沢 正和 監修
●栄養まるごと10割レシピ!	小田 真規子	日本vs. アメリカvs. 欧州自動車世界戦争	泉谷 渉
認知症で使えるサービスしくみ お金のことがわかる本	田中 元	作り置き&帰って10分おかず336	倉橋 利江
大逆転! 奇跡の人類史	NHKスペシャル 「人類誕生」制作班	汁かけごはん	田内 しょうこ
怪異古生物考	土屋 健	30分で3品! 毎日のふたりごはん	若山 曜子
マンガでよくわかる逆境を生き抜く 打たれ強さの秘密	岡本 正善	ソウルフード探訪	中川 明紀
食いしんぽでも薬に頼らず コレステロールを自分で下げる方法	主婦の友社	● 太陽を創った少年	トム・クラインズ
海の世界地図	Don Hinrichsen	● Harumi 栗原はるみのわたしの味	栗原 はるみ
無限	イアン・スチュアート	やっではいけない老後対策	大村 大次郎
先生、オサムシが研究室を掃除 しています!	小林 朋道	結んで作るブレスレット 改訂版	ブティック社
性の進化史	松田 洋一	レトルトの女王のアイデアレシピ	今泉 マユ子
薬草のちから	新田 理恵	● 10キロやせて永久キープするダイエット	山崎 潤子
● 日本の星名事典	北尾 浩一	わたしだけのおいしいカレーを作るために	水野 仁輔
「便」と「尿」の悩みをスッキリ解決する本	「きょうの健康」 番組制作班	血管が若返る水煮缶レシピ	村上 祥子
コピーして使えるシニアの漢字で 脳トレーニング	脳トレーニング 研究会	着心地のよい、暮らしの服	美濃羽 まゆみ
「片頭痛」からの卒業	坂井 文彦	かぎ針で編んで作るビーズクロスエ のブレスレット	日本ヴォーグ社
脂質異常症がよくわかる本	寺本 民生 監修	野菜と栄養たっぷりな具だくさんの 主役サラダ200	エダジュン
大人女子のためのココロとカラダが よるこぶアロマテラピー	パイ インターナショナル	● 新幹線全車種コンプリート ビジュアルガイド	レイルウエイズ グラフィック
差がつく70歳からの病気	朝日新聞出版	女子栄養大学の誰も教えてくれない発酵 食のすべて	五明 紀春 監修
まんがでわかる天気痛の治し方	佐藤 純	宇宙ビジネスの衝撃	大貫 美鈴
認知症を堂々と生きる	宮本 礼子	かぎ針あみのスカーフ&ショール レーシッククロスエ	日本ヴォーグ
驚くほど耳がよくなる! たった10秒の 「耳トレ」	今野 清志	血管&脳が若返る! 「水煮缶」 簡単レシピ	石原 新菜 監修
遺伝人類学入門	太田 博樹	ハーバリウムづくりの教科書	平山 りえ
知の果てへの旅	マーカス・デュ・ ソートイ	● タスカジさんが教える 最強の「家事ワザ」	タスカジ 監修
5 技術・工業・家事		大人の花刺繍	蓬萊 和歌子
50代から生涯暮らすリフォーム	天野 彰	帆布のバッグベーシックスタイル20	日本ヴォーグ社
EVと自動運転	鶴原 吉郎	シンプルがおいしい飛田さんの野菜レシピ	飛田 和緒
アジアの麺	ワタナベ マキ	● こどもスケッチ	おーなり 由子

新着図書案内 平成30年9月 No.3

●印は今評判の本です。(電話やメール・ホームページでも予約を受け付けています)

書名	著者	書名	著者
6 産業・商業		913 日本の小説	
● 日航123便墜落疑惑のはじまり	青山 透子	白き糸の道	澤見 彰
物流が一番わかる	齋藤 正宏	● 青嵐の坂	葉室 麟
花の楽しみ育て方飾り方	吉谷 桂子	● 六月の雪	乃南 アサ
北海道ワンちゃんと泊まるこだわりの宿厳選ベストガイド	カルチャーランド	● ファーストラヴ	島本 理生
犬の声が聞こえる 犬と人の心をつなぐメッセンジャー	アネラ	● ミルク・アンド・ハニー	村山 由佳
全国お米のこだわり銘柄事典	日本食糧新聞社	漱石センセと私	出久根 達郎
プランターで寄せ植え野菜	竹内 孝功 監修	長兵衛天眼帳	山本 一力
岩合光昭の世界ネコ歩き 2	岩合 光昭	● ロンリネス	桐野 夏生
ニシンの歴史	キャシー・ハント	● 平城京	安部 龍太郎
7 芸術・スポーツ		タイトルはそこにある	堀内 公太郎
もういちど訪ねる日本の美 上・下	小林 忠 監修	恋の川、春の町	風野 真知雄
● 一発屋芸人列伝	山田ルイ53世	くらげホテル	尾崎 英子
新しいピラティスの教科書	石部 美樹	名探偵誕生	似鳥 鶏
身体的物語論	蛭川 幸雄	● 選んだ孤独はよい孤独	山内 マリコ
47都道府県・国宝／重要文化財百科	森本 和男	滅びの園	恒川 光太郎
ほぼ100均プチプラ花コーデ	川守 由利子	× 太よ	原田 宗典
もっと知りたい横山大観	古田 亮 監修	ニードルス	花村 萬月
これだけ！ゴルフを楽しく始める本	サンクチュアリ ゴルフ監修	燃える水	河合 莞爾
● 北国からの手紙	井上 浩輝	● 未来	湊 かなえ
ピーターラビットの仲間たち写真集	菜十木 ゆき	● チングス紀 1・2	北方 謙三
母、野際陽子 81年のシナリオ	真瀬 樹里	福家警部補の考察	大倉 崇裕
ここから始まる 人生100年時代の男と女	蛭川 有紀	● 万引き家族	是枝 裕和
国宝の解剖図鑑	佐藤 晃子	炎の来歴	小手鞠 るい
99%の人が速くなる走り方	平岩 時雄	元禄お犬姫	諸田 玲子
12か月のねこ切り絵	高木 亮	● ののはな通信	三浦 しをん
● 美術館へ行こう	伊藤 まさこ	● ウォーターゲーム	吉田 修一
手仕事のはなし	阿部 了写真	ずっと喪	洛田 二十日
8 言語		いまは、空しか見えない	白尾 悠
ことばの雑記控 六十の手習い八十の飯事	倉持 保男	ASK トップタレントの「値段」	新堂 冬樹
小論文 書き方と考え方	大堀 精一	● キリの理容室	上野 歩
大人の語彙力使い分け辞典	吉田 裕子	鏡じかけの夢	秋吉 理香子
同時通訳者のカバンの中	関谷 英里子	● 婚活食堂	山口 恵以子

新 着 図 書 案 内 平成30年9月 No.4

書 名	著 者	書 名	著 者
● 爆身	大沢 在昌	9 その他の文学	
火環(ひのわ) 八幡炎炎記 完結編	村田 喜代子	おなかがすいたハラペコだ。 2	椎名 誠
本懐	上田 秀人	ふわふわ	谷川 俊太郎
● 瑕疵借り	松岡 圭祐	石牟礼道子 さよなら、不知火海の言魂	河出書房新社
飛ぶ孔雀	山尾 悠子	● 憂鬱な10か月	イアン・マキューアン
若旦那のひざまくら	坂井 希久子	モラルの話	J. M. クッツェー
蕎麦、食べていけ!	江上 剛	● 水中翼船炎上中	穂村 弘
あること、ないこと	吉田 篤弘	● 詩のきらめき	池澤 夏樹
仕事は2番	こざわ たまこ	金子兜太のことば	石 寒太
● 雲の果(「弥勒」シリーズ 8)	あさの あつこ	● とりあえずウミガメのスープを仕込もう。	宮下 奈都
● 新選組の料理人	門井 慶喜	曇り、ときどき輝く	鎌田 實
ペンギンは空を見上げる	八重野 統摩	● 白墨人形	C. J. チューダー
無暁の鈴	西條 奈加	● 人間にとって病いとは何か	曾野 綾子
虚の聖域 梓凧子の調査報告書	松嶋 智左	納得して死ぬという人間の務めについて	
幸腹な百貨店 3	秋川 滝美	シルバー川柳入門	水野 タケシ
わたしの本の空白は	近藤 史恵	やっぱり食べに行こう。	原田 マハ
いちごの唄	岡田 恵和	きんじよ	いしい しんじ
その話は今日はやめておきましょう	井上 荒野	一日の言葉、一生の言葉	白井 明大
● 連続殺人鬼カエル男ふたたび	中山 七里	ほろ酔い天国	青木 正児ほか
日の出	佐川 光晴	● 役に立たない人生相談 2 好きなようにやればいい。	佐藤 愛子
● 烏百花 蜚の章 八咫鳥外伝 (八咫鳥シリーズ 外伝)	阿部 智里	知の体力	永田 和宏
カラスのジョンソン	ドリアン助川	● 生きるとか死ぬとか父親とか	ジェーン・スー
亀と蛇と虹の寓話	東 賢次郎	バブルを抱きしめて	島村 洋子
ありえないほどうるさいオルゴール店	瀧羽 麻子	愛することば あなたへ	瀬戸内 寂聴
ストーブ列車殺人事件	西村 京太郎	近現代アイヌ文学史論 近代編	須田 茂
紅のアンデッド(法医昆虫学捜査官6)	川瀬 七緒	信じ合う支え合う 三浦綾子・光世エッセイ集	三浦 綾子
ドロシイ殺し	小林 泰三	チュサンマとピウスツキとトミの物語他	花崎 皋平
黙過	下村 敦史	女子刑務所ライフ!	中野 瑠美
● ヘイ・ジュード(東京バンドワゴン 13)	小路 幸也	神様のいる街	吉田 篤弘
● 地球にちりばめられて	多和田 葉子	影の子	デイヴィッド・ヤング
砂の家	堂場 瞬一	山本周五郎 背筋を伸ばす反骨の文士	河出書房新社
Team383	中澤 日菜子	短歌と俳句の五十番勝負	穂村 弘
● あやかし草紙 三島屋変調百物語伍之続	宮部 みゆき	明日への一歩	津村 節子

お知らせ

「市民の広場」をご活用ください

いつも図書館通信をご覧いただき、ありがとうございます。

このたび、図書館通信では「市民の広場」を開設しました。

「市民の広場」では、市民の皆さんの活動の紹介や周知、図書館へのご意見、おすすめ本の紹介などを発信していきたいと思っております。

投稿を希望される方は、図書館までご連絡ください。

図書館カレンダー 平成30年 9月

日	月	火	水	木	金	土
						1 映画会
2	3 本館休館	4	5	6 分館休館	7	8 えほんのへやのおはなし会
9	10 本館休館	11	12 ブックスタート	13 分館休館	14	15
16	17 敬老の日 本館休館	18 祝日振替 本館休館	19 油絵受付開始 (9/29まで)	20 分館休館	21	22 おはなし ぽけっと
23 秋分の日 本館休館	24 本館休館	25	26 ライブライリー スタート おはなし会	27 分館休館	28 図書整理日 本館休館 分館休館	29 郷土史講座
30						

図書館施設案内

	本館 こぐま号	アーニス分館	鷲別配本所	登別配本所	温泉配本所
住所	中央町5-21-1	中央町4-11	鷲別町3-3-4	登別東町3-6-7	登別温泉町58-1
電話	85-4324	81-2182	86-8823	83-1131	84-2068
休館日	月曜日・祝日・年末年始 本館：最終金曜日 こぐま号：日曜日	木曜日 最終金曜・年末年始	年末年始のみ		なし
開館時間	10:00～18:00 (木曜のみ19:30)	10:00～20:00	9:00～18:00 (昼休みあり)	9:00～17:30 土日祝 17:00	9:00～15:00